

The *PATHOS* magazine of Kumamoto General Hospital

独立行政法人
地域医療機能推進機構 (JCHO) 熊本総合病院だより

ぱとす



第52号
2026年
春号

Volume 14 Number 2 April 2026

今年も桜満開の季節になりました



コロナよりやばいPM2.5

ロシアのウクライナ侵攻は大変なことだと思っておりましたら、本年2月末に今度はイラン・米国イスラエル戦争が勃発し、ホルムズ海峡も封鎖され、日本は燃料高・原油不足・物流高・食品高の複合ショックの状態となっております。誠に、日本の将来に不安ばかりの新年度となっておりますが、皆様方におかれましてはご清祥のことと拝察申し上げます。



当院は今年度も、皆様方のご支援の下、一丸となってさらに質の高い急性期医療の実践を行ないながら、「まちづくり」にも貢献するように最大限の努力をしております。そして、このように努力できますことは、医師会、熊本大学教授陣、国・県・市行政ならびに市民の皆さま方のご支援の賜と深く感謝申し上げます。

ところで、新年度を迎える直前の3月末、熊本から八代に向かっておりましたら、何とたった100mまでも視界不良となっており尋常の春霞ではないので、何事かとゾッとしました。直ぐに調査を致してみましたら、黄砂や花粉ではなく、その正体はPM2.5ということが判明致しました。その時の、PM2.5の分布が（図1：ヨーロッパ中期予報センター ECMWF）でございます。

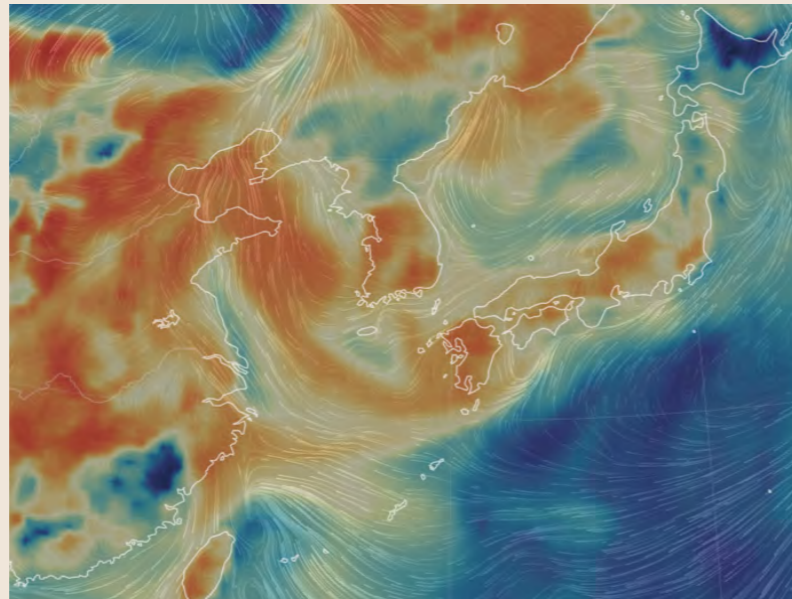


図1：3月末のPM2.5飛散状況(ECMWF)

ご存知のとおり、PM2.5は大きさわずか2.5 μmで髪の毛の太さの約30分の1以下の粒子ですから、肺の奥深くまで吸い込まれ肺細胞内のDNAを傷つけ、肺がんの原因となります。日本経済新聞によると、かのチャイナでは、もう20年以上も前から重度のPM2.5による大気汚染が問題視され、その正体はチャイナに多く残る石炭火力発電所から出る硫酸化物の排ガスだそうで、北京では体調を崩した子供が大勢病院に詰めかけたとのことでした。

さらに驚いたことに、2024年8月のナショナル・ジオグラフィック誌の「PM2.5などで肺がんが世界で増加、台湾では患者の3分の2が非喫煙者」というニュースは衝撃的でした。図1のとおり、台湾はチャイナのすぐ東に位置して、PM2.5が直に飛来していると報じています。また、記事の中で、「日本女性の肺がんのうち、何と75.1%が非喫煙者である」との報告も紹介されていました。

一方、日本における大気汚染事案は、よくご存知の4大公害病の1つである1950年代末から1970年代にかけて問題化した四日市喘息ですが、現在、日本の大気汚染は格段に改善され、PM2.5の全国環境基準達成率は約98～100%と高い水準となっているそうです。

このように、日本国がどんなに大気汚染対策に一生懸命になっても、お隣のチャイナからこの様な濃厚なPM2.5が押し寄せれば、日本の努力は水泡に帰す訳で大問題ですが、今、どこのメディアも政府も政治家も学会までもがだんまりを決め込んでおり、誠に遺憾です。本当に残念なことに、犠牲になるのはいつも無垢な日本国民です。

さておき、わたくし共の熊本総合病院は、今年度も引き続き全職員が一丸となって、「医療とともに、公に一肌脱ぎ」ながら「医療のみならずまちづくりにも貢献する」意気込みで、地方創生・人口増加・少子化阻止にも少しでも寄与できるように、さらに精進して参ります。今年度も、皆さま方の格別のご支援を何卒宜しくお願い申し上げますとともに、皆さま方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

令和8年 4月吉日

新任医師紹介



健康管理センター長
糖尿病センター長
川崎 修二



外科医長
清水 健次



腎センター医長
丸山 功祐



整形外科医員
谷村 峻太郎



放射線科医員
杉谷 亜希



循環器内科医員
池邊 壮



消化器内科医員
泉 見奈



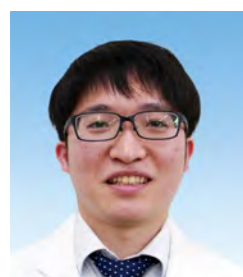
整形外科医員
福田 俊樹



泌尿器科医員
田中 大樹



放射線科医員
内海 祥子



耳鼻咽喉科・頭頸部外科医員
木脇 領太



消化器内科医員
赤木 由理恵



外科医員
島本 将希



外科医員
森 太志



麻酔科医員
榮永 悠大



消化器内科医員
白奥 光一



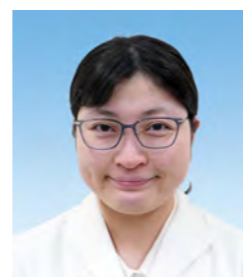
産科婦人科医員
今村 愛夢



腎センター医員
坂本 百合子



血液内科医員
石松 光紗



研修医
吉田 梨紗

心と身体に寄り添う 当院の直営給食

副栄養管理室長 白坂 亜子

四季を感じられる病院給食を目指し、当院では、全国的に委託化が進む中であっても直営体制を守り、美味しく安全な食事を提供しています。

直営だからこそ、地産地消の食材選びにこだわり、米は炊き上がりのつやと粘りが特徴の球磨産「くまさんの輝き」を使用しています。野菜や魚、果物もできるだけ生のものを選び、季節の味を大切にしています。調理は、加熱後すぐに提供する従来の「クックサーブ方式」を採用し、再加熱を行わず、できたての美味しさを届けています。

入院中の食事が楽しみのひとつとなるよう、管理栄養士と調理師が力を合わせて日々取り組んでいます。



やさしい味で楽しむひなまつり献立

病院機能評価の認定について

副院長兼外科部長 堀野 敬

令和7年12月5日付で、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価（一般病院2）の認定を受けました。

当院は定められた基準を満たし、17年ぶりの受審にもかかわらず、全項目で極めて高い評価を受け一発合格となりました。つまり、組織全体として患者様中心の医療を推進し、日常的に安全・安心で良質な医療を提供し続けている病院であることが公式に認められたこととなります。

“八代地域住民の疾患は熊本総合病院で治す！”というモットーはこれからも変わらず、全ての患者さまとご家族に十分に満足頂ける地域完結型の質の高い医療を常に提供できるよう日々精進してまいります。

何かありましたらいつでもお気軽にご相談ください。



地域包括ケア病棟のご案内

13階 地域包括ケア病棟

我が国は世界でも類を見ない高齢化社会を迎え、更に進行しており超高齢社会に突入している状況です。八代市の現状として、高齢者人口は全国平均よりも早く、令和3年にピークを迎えました。後期高齢者は令和17年まで増加の見込みであり、より一層医療、介護の支援を必要とする事例が増加する見通しにあります。

当院の地域包括ケア病棟は、急性期病院を母体とする強みを活かし急性期治療後も安心して療養・退院の準備ができる病棟です。高齢社会の進展に伴い、在宅生活継続が困難となる場面が増えています。当病棟では、急性期治療後の患者さんに加え、在宅療養中の一時的な体調悪化や介護困難となった方、介護者の休養を目的としたレスパイト入院にも対応しております。入院中は、医師・看護師・リハビリスタッフ・医療ソーシャルワーカーなど多職種が連携し、リハビリテーション、服薬、栄養管理、生活機能の評価を行い、患者さん・ご家族の状況に応じた退院支援を実施します。ケアマネージャーや訪問看護、介護サービス事業所とも密に連携し退院後の生活を具体的に見据えた調整を行います。



13階病棟からの風景

また、院内に急性期機能を有しているため、入院中の病状変化にも迅速な対応が可能です。在宅継続が不安な場合や介護にお困りの際は、是非当院地域包括ケア病棟への紹介をご検討ください。地域の皆様に寄り添い、切れ目のない医療・ケアを提供してまいります。



13階病棟スタッフ

JCHO・かえるチャレンジ!優秀ポスター賞受賞

システム課長補佐 西村 秀洋

JCHOでは、職員が主体的に職場内の課題に対して創意工夫を凝らし、改善に取り組むことを推奨するため、職場チームによる業務改善の取組に対する表彰制度を設けています。この取組（JCHO・かえるチャレンジ!）において、当院の「ジェイ兄弟イノベーションチーム」が優秀ポスター賞を受賞しました。

当院では、医師や看護師、メディカルスタッフ、事務職員など、さまざまな職種が連携しながら、より良い医療を提供できるよう、ITを活用した業務改善に取り組んでいます。

具体的には、入院患者さんの受け入れや病床の調整を支援する「ジェイ太郎」と、院内のさまざまな業務を効率化する「ジェイ次郎」というシステムを活用し、日々の業務をよりスムーズに行える環境を整えています。

これらの取り組みにより、「もっとこうすれば良くなるのでは」という新たな改善のアイデアが現場から自然に生まれ、継続的に進化していく仕組みができています。

今後は、この基盤を活かしながら、AIなどの新しい技術も取り入れ、より安全で質の高い医療の提供と働きやすい環境づくりを進めてまいります。



ジェイ兄弟イノベーションチーム

こんにちは赤ちゃん

ご出産おめでとうございます これからの毎日が、笑顔であふれますように。



災害訓練実施報告

当院では毎年、**地震発生を想定した大規模災害訓練を実施**しています。

今年度は全部署から参加者を募り、**トリアージや多数傷病者の受け入れを想定した患者シミュレーション**を行いました。各部署が連携し、迅速な対応手順を確認するとともに、実際の災害時に求められる判断力や情報共有の重要性を再認識する機会となりました。また、課題の洗い出しにも繋がる有意義な訓練となりました。



当院は災害に強い堅牢な建物であり、**2016年の熊本地震**では多くの患者を受け入れました。また、**2025年8月の県下各地に被害をもたらした洪水**においても、救急車受け入れ要請を断ることなく、**すべてに対応**しました。

今後も、地域医療を支える病院としての誇りを持ち、皆さまから信頼される病院を目指し、防災体制の強化に取り組んでまいります。

駐車場のご利用について

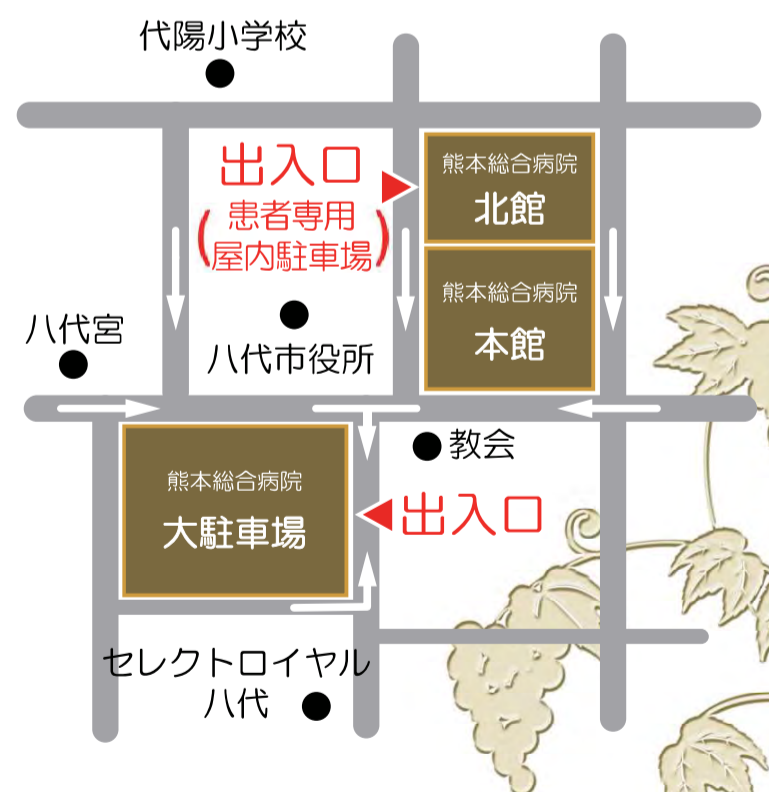
患者専用駐車場

熊本総合病院**北館1階**に**患者専用駐車場**をご用意しております。屋内の駐車場ですので天候に左右されずご利用いただけます。**無料**ですが、**認証が必要**です。

大駐車場

基本的に**無料**ですが、平日は当院による**認証が必要**となっております。**土日祝日は市街地活性化のために認証不要**です。

22時以降の駐車はできません。(以降は高額 of 駐車料となります)



JCHO 熊本総合病院

〒866-8660 熊本県八代市通町 10 番 10 号

電話 0965-32-7111(代表)

FAX 0965-32-2772

URL <https://kumamoto.jcho.go.jp/>

発行日: 令和8年4月10日

発行責任者: 病院長 島田信也

